



環境報告書 2024





(本学のイメージキャラクター「マナーブ・デ・ジョーキョー先生」)

目 次

学長メッセージ

1. 環境方針	1
2. 大学概要	2
3. 運営組織等	3
4. マテリアルバランス（環境負荷実績）	4
5. 環境物品等の調達実績	6
6. カーボンニュートラルに向けた取組の推進	7
7. 環境配慮活動	8
8. 地域との連携	9
9. 関係法令、環境規制への対応	9
10. 出前講座、公開講座の実施状況	10
11. 附属幼稚園の取組	11

報告対象：山屋敷キャンパス（大学・附属幼稚園）

西城キャンパス（附属小学校・学校教員養成・研修高度化センター）

本城キャンパス（附属中学校）

対象期間：2023年度（令和5年度） 2023年4月～2024年3月

学長メッセージ



国立大学法人上越教育大学

学長 林 泰成

私自身が環境問題に意識を向けるようになったのはいつのころだったのかを振り返ってみると、高校生のときの英語のテキストに掲載されていたレイチェル・カーソンの『沈黙の春』がきっかけだったように思います。調べてみると、原著の初版は1962年ですから、カーソンによる環境破壊の指摘は、ずいぶんと早い段階でなされたと言えるでしょう。タイトルの沈黙の春とは、農薬散布などの影響によって鳥のさえずりが聞こえなくなった春を意味しています。しかし、その後も、日本では、ヘリコプターによる農薬散布などが行われていましたから、現在のように自然環境の保全が声高に叫ばれるようになるまでには、ずいぶんと時間がかかっているようにも思います。

資本主義の根幹には、資源を蕩尽するというような一面があると思いますので、環境保全を現代の社会システムの中に組み込むことはなかなか難しいことなのだと考えます。

しかし、私たち人類は、次の世代の生きる権利を保障する責務があります。そのためには、この地球上の環境を保持し続けるように行動することが求められます。そして、そうしたことはすでに、国連によってSDGs（持続可能な開発目標）のような目標として示されてもいるのです。

本学も、教育に関する業務を進めるにあたって、施設安全・環境委員会を設置し、環境負荷を縮減する活動や、環境保全に向けた活動にも積極的に取り組み、“Think globally, act locally”の合言葉のもと、環境にやさしい組織で在り続けたいと願っています。

1. 環境方針

国立大学法人上越教育大学 環境方針

(平成 23 年 1 月 12 日制定)

上越教育大学は、自然や歴史、文化に恵まれ、教育に対する深い理解と愛情を有する文教の地において、国際化時代に対応し「地域に根ざした教員養成」を実現するにあたり、教育、研究、社会への貢献、地域連携等の活動に対し、全ての大学構成員が協力して、次の事項を推進することにより、環境との調和と環境負荷の低減に努めます。

1. 持続発展可能な社会の構築に貢献する力量を身につけるための環境教育・環境学習活動を推進し、教育現場をはじめ地域社会において環境保全の推進に活躍する人材の養成に努めます。
2. 豊かな自然との共生を図り、生物多様性を重視し、地球規模で環境を考え、地域から行動・発信し、評価できる人材の養成に努めます。
3. 環境関連法規を遵守するとともに、本学としての特徴を活かした持続発展教育や環境保全活動を推進し、地球環境に対する負荷の低減を図ります。
4. 循環型社会の構築を進めるための環境マネジメントシステムを確立するとともに、大学構成員の意見をもとに継続的な改善を図ります。

●環境に関する体制

上越教育大学における環境保全の活動を推進するため、学長の下に施設安全・環境委員会を設置しています。

施設安全・環境委員会（8名）

委員長：学長が指名する副学長【理事兼副学長（人事・環境・附属学校担当）】

委員：各学系から選出された教授または准教授（講師及び助教を含む）各1人（5名）、
理事兼事務局長（総合調整・事務総括担当）、施設課長

（目的）

施設の安全、環境の保全（廃棄物の管理を含む）、施設の有効活用の促進及び施設整備（屋外環境整備を含む。）等について検討することを目的とする。

2. 大学概要



山屋敷キャンパス



西城キャンパス



本城キャンパス

●データで見る大学概要(2023年5月1日時点)

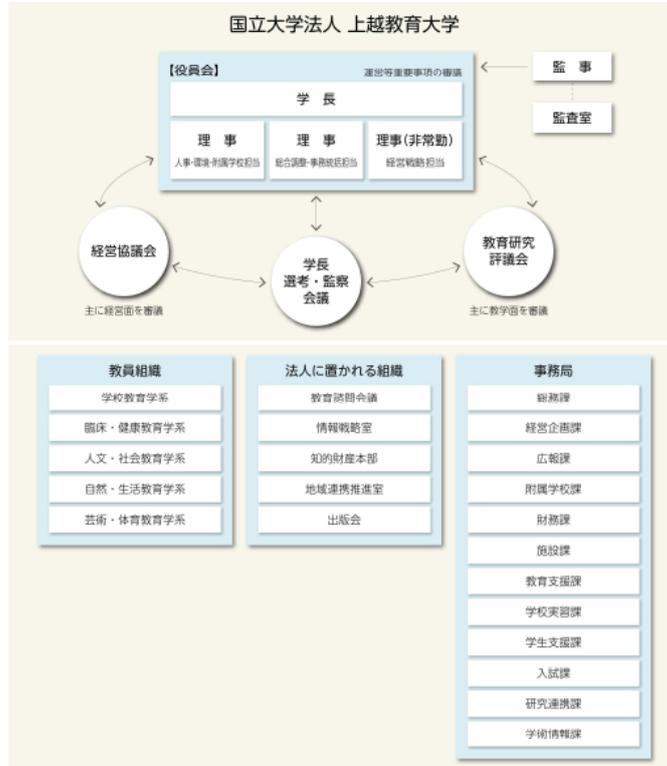
キャンパス名	山屋敷	西城	本城	その他	計
学生(学部)	673名	—	—	—	673名
学生(大学院)	505名	—	—	—	505名
学生(連合大学院)	36名	—	—	—	36名
園児・児童・生徒	45名	415名	325名	—	785名
教員	147名	19名	18名	—	184名
事務職員	107名			—	107名
土地	353,041 m ²	36,731 m ²	50,127 m ²	18,086 m ²	457,985 m ²
建物	66,437 m ²	7,987 m ²	5,930 m ²	9,009 m ²	89,363 m ²

3. 運営組織等

●運営組織

(法人と大学)

(2023年5月1日時点)



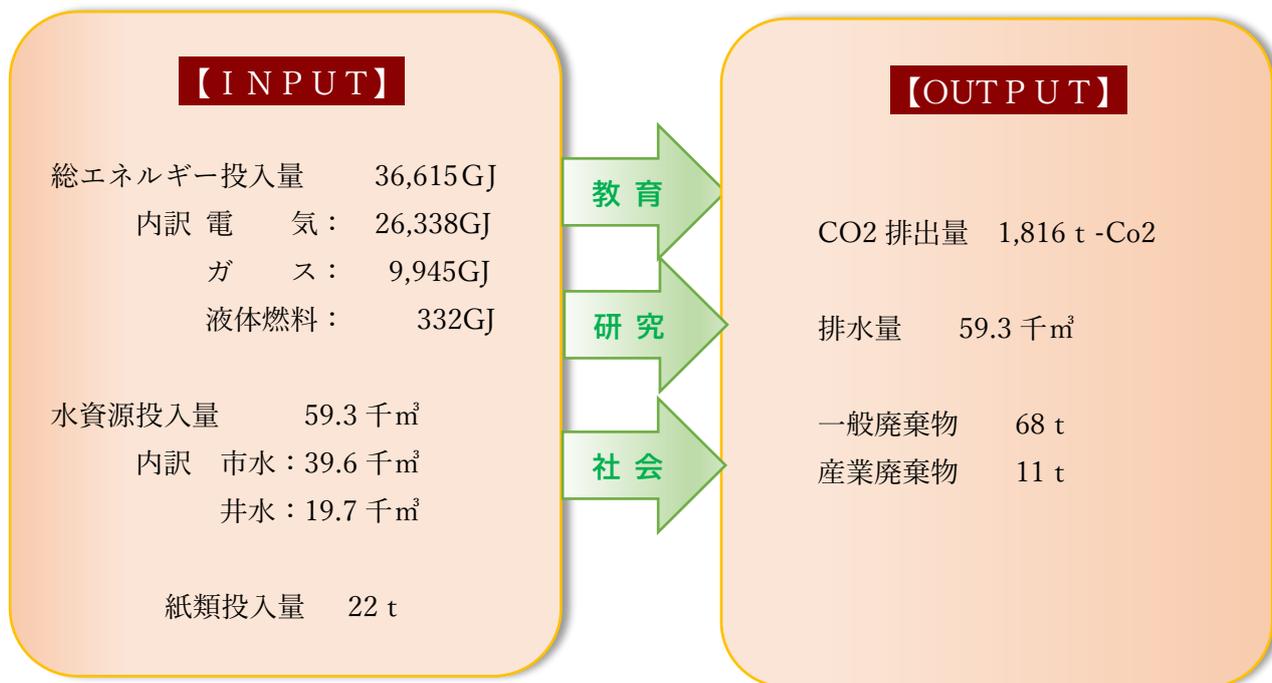
●教育組織

(2023年5月1日時点)



4. マテリアルバランス(環境負荷実績)

本学の事業（教育・研究・社会）活動におけるエネルギー及び資源の投入量【INPUT】とその活動に伴って発生した環境負荷の排出量【OUTPUT】をあらわす。
 (※エネルギーの使用量については、省エネ法の参照による)

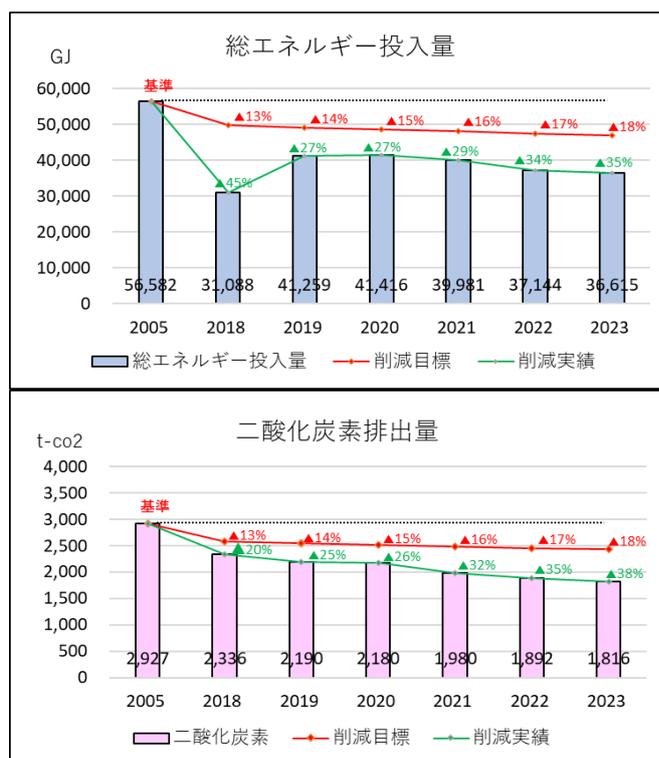


●エネルギー消費削減目標

本学は、2005年度(平成17年度)の排出量を基準として、毎年1%削減することを目標に省エネルギーに取り組んでいます。

●エネルギー消費削減の行動

エネルギー消費削減目標を達成するため、エネルギー使用量の見える化を毎月実施し、省エネ意識の醸成を図っています。エネルギー消費削減目標を達成するため、エネルギー使用量が多くなる夏季及び冬季に節電計画を示し、削減目標の達成に向けて、省エネ行動を推進しています。



●エネルギー消費量分析・実績

本学で使用するエネルギー量のうち、電気使用量が72%を占めており、ガス使用量は27%、液体燃料は1%の構成です。

ガス使用量は、主に熱源用エネルギーとしてボイラー（暖房・給湯）、冷温水発生器(暖房・冷房)などに使用しています。

総エネルギー投入量は、平成17年度比35%減、対前年度比1%減となりました。

対前年度比の内訳は、電気は1%減、ガスは3%減となりました。

本学のある上越市は多雪地帯のため、地下水を利用した消雪設備が構内道路に敷設されており、井水使用量も増加しました。

地球温暖化の原因とされる温室効果ガスのうち占める割合の多い二酸化炭素の排出量は、平成17年度比38%減、対前年度比4%減となりました。

●エネルギー消費削減の実施

高効率機器の導入として、人文棟改修(IV期)工事に際し、LED照明、高効率空調設備、複層ガラス、断熱材、節水型器具等の採用を行いました。



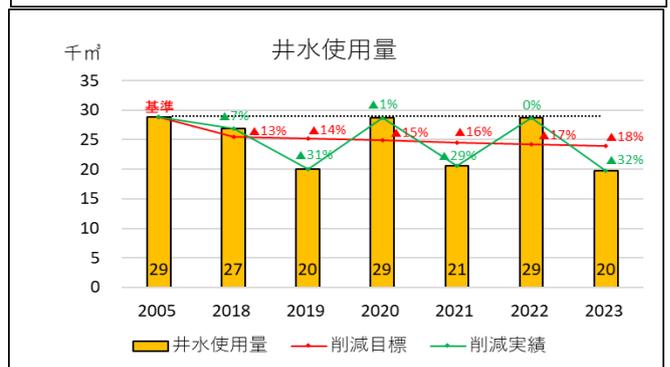
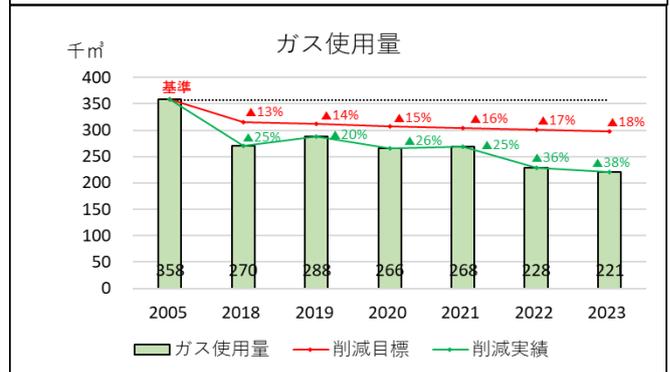
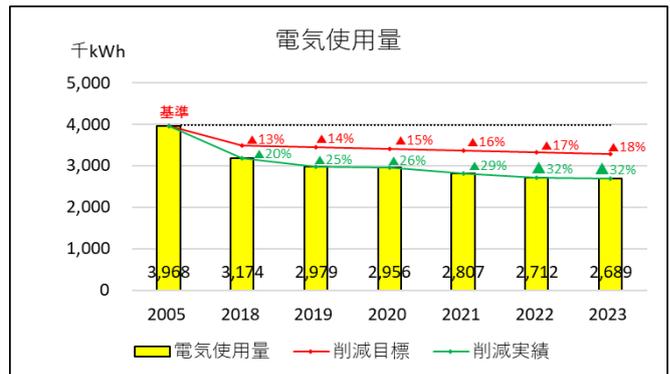
LED照明、高効率空調、複層ガラス



高効率空調設備室外機



節水型器具



5. 環境物品等の調達実績

I. 令和5年度 特定調達品目の調達状況

①目標達成状況

調達方針において、調達予定のないもの以外の目標はすべて100%としていましたが、一部封筒類・乗用車において判断基準を下回ったものの、ほぼ100%を達成することができました。

②調達目標を達成できなかった理由等

物品等関係で一部封筒類において、調達目標を達成できなかった主な理由としては、各種業務において、その用途の特殊性等の理由により、特定調達品目の中に仕様内容を満足する規格品がなかったことによります。乗用車においては、調達当初はグリーン購入法適合品でしたが、リース契約の継続期間中に法改正がなされたため対象外となり、判断基準を下回りました。

③判断基準より高い基準を満足する物品等の調達状況

判断基準より高い基準を満足する調達はありませんでした。

【令和5年度 グリーン購入実績】

分野	総調達	特定調達物品	目標達成
紙類（7品目）	22,236kg	22,236kg	100%
文具類（85品目）	81,624個	51,554個	63.2%
オフィス家具等（12品目）	744品	744品	100%
画像機器等（10品目）	1,072台	1,072台	100%
電子計算機等（4品目）	622台	622台	100%
オフィス機器（5品目）	2,320個	2,320個	100%
携帯電話機等（3品目）	2台	2台	100%
家電製品（6品目）	29台	29台	100%
エアコンディショナー等（3品目）	45台	45台	100%
温水器等（4品目）	1台	1台	100%
照明（3品目）	136個	136個	100%
自動車等（8品目）	7品	6品	85.7%
消火器（1品目）	37本	37本	100%
制服・作業服（4品目）	28品	28品	100%
インテリア・寝装寝具（11品目）	13品	13品	100%
作業手袋（1品目）	182組	182組	100%
その他繊維製品（7品目）	13点	13点	100%
設備（11品目）	165件	165件	100%
災害備蓄用品（既存品目以外の10品目）	10,738個	10,738個	100%
役務（20品目）	467件	467件	100%
ゴミ袋等（1品目）	14,320枚	14,320枚	100%

II. 温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績の概要(ホームページより)

令和5年度においては、環境配慮契約に該当する契約はありませんでした。

6. カーボンニュートラルに向けた取組の推進

上越教育大学は、2050年カーボンニュートラル実現に向け、令和4年6月に「国立大学法人上越教育大学における温室効果ガス排出抑制等のための実施計画（第4期）」を策定し、2030年度までに、2013年度比51%の温室効果ガス排出削減を目指す取り組みを行うこととしています。

目指すべき方向

I. キャンパスの取組 (Campus)

全キャンパスにおいて、省エネルギーの実施、創エネルギーの導入、再生可能エネルギーの利用等に取り組み、カーボンニュートラルの実現を目指す。

II. 研究の取組 (Research)

学校教育におけるカーボンニュートラル実現に向けた課題解決のため、教育現場に根ざした研究活動を推進する。

III. 人材育成の取組 (Education)

地球規模の環境問題に関する教育を通じ、脱炭素に進む社会の要請に貢献出来る人材を育成し、カーボンニュートラルを含めた持続可能な社会の実現を目指す。

IV. 社会貢献の取組 (Social Contribution)

地球環境問題の課題解決に向け、本学がかかわるさまざまな活動を通して社会貢献し、カーボンニュートラルを含めた持続可能な社会の実現を目指す。

温室効果ガス削減目標

カーボンニュートラル実現に向けた目標を定め、教職員、学生のみならず、本学にかかわる全ての構成員が一丸となり取組を推進する。

- ・短期目標：前年度比▲1%
- ・中期目標：2030年度までに2013年度比▲51%
- ・長期目標：2050年度までにカーボンニュートラルの達成

実現に向けたロードマップ

中期目標の2030年度に51%の削減、長期目標の2050年度にカーボンニュートラルを実現するためのロードマップを示す。



7. 環境配慮活動

I. 上越教育大学リサイクル募金

上越教育大学リサイクル募金は、不要になった本・DVD等の査定額を「上越教育大学基金」に寄附していただく取組です。

寄附金は、上越教育大学基金において、学生の修学支援、教育研究活動の充実発展をはじめとした事業に役立てられます。



II. キャンパス・クリーン・ウィーク

令和5年7月20日（木）～26日（水）の一週間を「構内クリーンウィーク」として、山屋敷キャンパスの環境整備を行いました。

例年この時期に学生及び教職員が集まり、2019年度までは、半日かけてキャンパス内の一斉清掃を行っていましたが、2020年度からは、新型コロナウイルス感染症予防対策として、一週間の中で各自が都合の良い日時に作業を行うこととしています。



III. 緑の小道

緑の小道周辺の森は、古来より脈々と継承されてきた歴史と文化が既存樹木を介してうかがい知ることができる貴重な体験の場であり、その貴重な森を守るには、上越地域の潜在自然植生種の保護育成に努め、外来種をできるだけ排除する環境整備を行うことが重要です。

かつて地域の人々の生活の場であった里山（薪炭林や農用林として使われ、守られてきた二次林）を散策道として整備したもので、自然環境学習の貴重な教材として本学の学生や地域の子供たちなどが、里山の森を体験できる学びの場として内外から活用されています。

整備当初から保全・整備及び活用推進を図るため「緑の小道レンジャー隊」を毎年、学生・教職員により編成しており、危険個所の点検等を実施しています。



8. 地域との連携

春日山城跡保存事業への参加

令和5年4月9日（日）、5月21日（日）、7月23日（日）、9月10日（日）春日山城跡保存整備促進協議会が主催する「春日山城跡の大清掃」と「春日山城跡の草刈り」に参加しました。これは、上杉謙信公の居城として知られる春日山城跡の環境整備事業として行われたもので、本学からは有志の学生及び職員延べ16名が参加しました。

春日山城跡のお膝元に位置する大学として、引き続き地域貢献に努めていきます。



9. 関係法令、環境規制への対応

関係法令等	本学の対応
水質汚濁防止法	水質検査
下水道法	水質検査
大気汚染防止法	ばい煙測定
グリーン購入法	公表
環境配慮契約法	公表
上越市生活環境の保全等に関する条例	届出

10. 出前講座、公開講座の実施状況

出前講座、公開講座は、大学の教育と研究の成果を広く地域社会に還元し、一般の方の生涯学習や、現職教員の方の研修の機会として役立てていただくために、地域貢献活動の一環として行われている事業です。この中で、「環境・自然」に関わるものを紹介します。

分野	講座名	講座概要	担当教員	実施日
社会・国際教育	地域の災害を想定する	地域で生じる可能性がある災害の特徴を確認し、その影響範囲について、図上作業を行いながら地域で生じる災害を想定します。	山縣 耕太郎	11月30日
	歩いて見よう高田城下町の地形	実際に高田城下町を歩いて地形を観察しながら、江戸時代の人々の知恵と工夫を知るとともに、上越地域の自然について学びます。	山縣 耕太郎	12月6日、 12月7日
	地球温暖化：なぜおきる？何がおきる？	実験を通して地球温暖化のメカニズムを理解してもらいながら、担当者が見てきた現場を含めて、世界における地球温暖化の現状を紹介し、将来に向けて私たちがどのような取り組みを行うべきかを考えたいと思います。	山縣 耕太郎	1月12日
	発展途上国からSDGsを考える	これまで調査してきた発展途上国における環境問題や地域問題を通して、SDGsの目標と意義について理解し、日本との関わりについて考えます。	山縣 耕太郎	10月27日
算数・数学・理科	身近な植物観察	名前を覚えることよりも、それぞれの植物の形の持つ意味や、生活様式の巧妙さ、植物同士や昆虫をはじめ他の生物との関わり面の面白さを理解してもらえたいことを目標とします。	五百川 裕	5月31日、 7月5日 9月21日
	びかびか泥団子をつくろう	泥団子作りを通して、子供たちに土(自然)と触れ合い、土(自然)に関心を持ってもらう機会としてもらいたいと考えています。	山縣 耕太郎	7月11日、 9月29日 10月26日 11月9日
	実験で知る地形のでき方	実験を取り入れて、わかりやすく地形のでき方を説明します。具体的には、川のはたらきと扇状地や段丘のでき方、斜面の浸食と地すべりのメカニズム、火山噴火のタイプと火山地形、地震に伴う現象などについて実験を通して観察、理解します。	山縣 耕太郎	9月28日
	地域の地形・地質の野外観察	地域の地形・地質を理解することは、地域の特徴や土地の成り立ちを理解するため、あるいは災害に備えるために重要と考えられます。 地域の地形・地質を観察する機会を提供します。	山縣 耕太郎	9月19日、 9月22日

11. 附属幼稚園の取組

附属幼稚園は、「太陽・土・水の大好きな子どもたち」を育むことをテーマとし、保育活動を進めています。その実現に向け、幼児が様々な遊びを通して身の回りの自然環境について興味や関心を持ち、大切にしていこうとする気持ちを高められるような園庭環境の整備に努めています。また、豊富な自然物を活かした遊びや、生き物との触れ合いや飼育、野菜の栽培など、自然環境を直接体感できる活動を積極的に取り入れ、環境教育へのつながりを意識した取組を日々行っています。

また、本園は、開園当初から屋外での遊びを推奨しています。園庭には様々な樹木や草花が植えられており、子どもたちは自然の素材を活かしながら季節に応じた遊びを展開します。晴れた日はもちろんのこと、雨降りの日は水たまりの水や泥の感触を楽しみ、風が吹けば空を舞う葉に歓声を上げるなど、子どもたちは様々な自然現象に興味をもってかかわります。園庭には池もあり、様々な虫や生き物に触れる機会も多く、遊びを通して命の大切さを学ぶことができます。

このように子どもたちが思い思いに遊びに浸ることができる環境を保つには、日々の環境整備が欠かせません。時には保護者の協力を得ながら、共に環境を整えていく活動を取り入れています。子どもの遊び・育ちを支えるだけでなく、保護者の環境保護への関心を高める上でも大切な取組となっています。



グミ採り



雨どい遊び



保護者による園庭整備作業



公表年月：2024年9月

作成：上越教育大学施設課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel：025-521-3263 / Fax：025-521-3269

E-mail：shisetsu@juen.ac.jp

URL <https://www.juen.ac.jp/index.html>